

第5章

コーディネーター配置事業の成果と将来像 ～2年8か月のモデル期間を経て～

地域の方々の「気づき」に、専門職のアドバイスや支援が入ること
で新たな仕組みができることもある…

それぞれの立場の長所を活かし、地域の方々の気づきと専門職
の強みをうまく融合させ、より住みよい地域づくりをしていく
ことが必要です。



1. 事業の検証

(1) 検証会議

コーディネーター配置事業の運営方法や相談事例などについて検証する機会として、茅ヶ崎市コーディネーター配置事業検証会議を開催しています。検証会議は、地区支援チームの構成員、その構成員の所属団体の代表者、茅ヶ崎市保健福祉課、高齢福祉介護課の職員で構成され、茅ヶ崎市地域福祉計画推進委員会の委員長である豊田宗裕氏をアドバイザーとして迎え、事業の検証を行い、都度振り返りを行うと共に、事業展開を検討しながら進めてきました。

*資料編77ページ参照



(2) コーディネーター配置事業中間報告会

平成23年度末にモデル期間の中間時点を迎え、中間報告書をまとめ、中間報告会を開催しました。中間報告会の開催結果を参考に、以降の事業展開に活かしてきました。(平成24年10月～平成25年2月にかけて開催。)

＊資料編80ページ参照

ア. 各モデル地区への報告会

	開催日	参加者
浜須賀地区	平成24年10月18日(木)	39名
湘北地区	平成24年10月30日(火)	22名

イ. 市全体への報告会

開催日	参加者
平成24年11月20日(火)	81名

ウ. 専門支援機関、地域支援団体等への説明

	開催日	参加者
民生委員児童委員協議会理事会	平成25年1月22日(火)	25名
小和田地区社会福祉協議会	平成25年2月5日(火)	28名

エ. 庁内関係各課への説明

開催日	参加者
平成24年10月25日(木)	17名

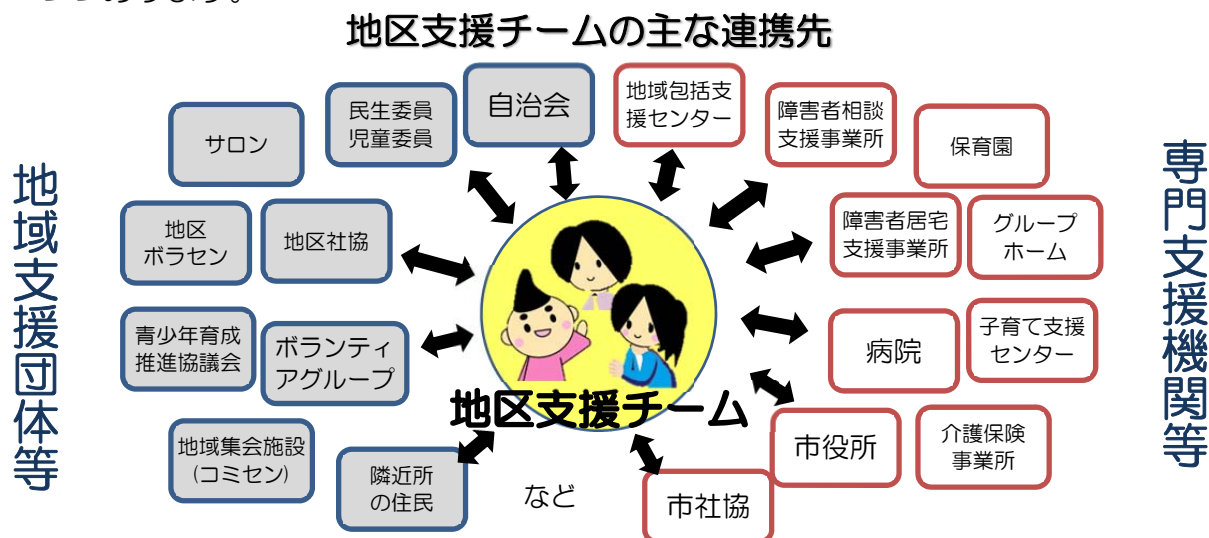


2. 事業の成果

(1) 相談支援体制の構築

地区ボランティアセンター・福祉相談室・茅ヶ崎市社会福祉協議会の地区担当職員が定期的に集まって（地区支援ネットワーク会議）、地区内で拾い上げた課題等を共有することで、相談しやすい関係づくりができました。また、地区のボランティアの受け付けた相談に対しての専門職によるバックアップ体制が出来上がり、地区内の協力体制が出来上がりました。

さらに、3者の連携だけでなく、地区支援ネットワーク会議に民生委員やケアマネジャーが参加するなど、地区支援チームを中心とした他機関との連携体制もできつつあります。



(2) 相談件数（H23.2～H25.9）

【浜須賀地区】 56件（高齢34件／障害11件／児童1件／その他10件）

	高齢 	障害 	児童 	その他
平成22年度	0件	1件	0件	0件
平成23年度	11件	2件	0件	5件
平成24年度	21件	5件	1件	5件
平成25年度	2件	3件	0件	0件

【湘北地区】 41件（高齢33件／障害5件／児童2件／その他1件）

	高齢 	障害 	児童 	その他
平成22年度	0件	0件	0件	0件
平成23年度	10件	2件	2件	0件
平成24年度	17件	1件	0件	1件
平成25年度	6件	2件	0件	0件

(3) 地区内のニーズの拾い上げから、新たな取り組みの実施

地域に住んでいる住民だからこそ気づくことができる生活の不便さがあると思います。その不便なことを「不便だね」と言っているだけでは何もかわりません。地域の方が気づいた「不便だね」を、専門職がアドバイスをすることで、取り組みに活かしていく事ができました。

【浜須賀地区例】「浜須賀保育園ののびのび広場があまり地域に利用してもらえない」という状況について、保育園と地区が連携した取り組みを実施しました。「のびのび広場」開催時に地区のボランティアがコーヒーとお茶を出し、利用される母親の相談役になったり、子どもたちの面倒をみたり等協力するということを試行的に始めました。



【湘北地区例】高齢化が進み、自家用車を手放す人が増え、バスの本数が少ない地域では買い物難民が増えている状況をとらえ、宅配してくれるお店等の情報を集約した一覧表（湘北地区お買い物支援マップ）を作成しました。作成にあたっては、地区のボランティアが歩いて情報収集に努めました。

湘北地区支援チーム

お買い物支援一覧表

2013/8/1

No.	名称(店名等)	住所	電話	サービス名	取り扱い内容	対象者	料金	備考
1	ミアクアーナ 高田店	高田5丁目5-21	51-8777	当日宅配	冷凍・冷蔵・常温 12の箱に付300円(冷蔵・常温は75円)		1箱に付 300円	当日12時までに 買い上げ
2	メルエツ	香川	54-5311	くまさん便	冷凍・冷蔵・常温はX 常温のみ	冷蔵 円高12時 300円以下は 525円	300円以下は 100円 300円以下は 525円	3時までに 買い上げ 防犯カメラ
3	〇〇〇	鶴が台店		なし (配達しません)	冷凍・冷蔵・雑貨			
4	〇〇〇	鶴が台店 みずぎ屋		なし (配達しません)	菓・雑貨			

1件1件歩いてまわったぞよ



*資料編95ページ参照

3. 事業の課題と取り組むべき事項

役割のガイドラインの作成

積み上げた事例をもとに、①各コーディネーターの役割を整理し、マニュアル化していく、②個別のケースでの具体的な解決手法をマニュアル化していく。



「できること」の 範囲の整理

事例の積み上げ

「できることからやる」というスタンスで、徐々にできることを広げていき、「ここまでができる」「できないものはできない」という判断の考え方を整理していくために事例を積み上げる。

個人情報の取り扱い

連携に必要な情報共有にあたっては、守秘義務に留意して行う。



他機関との連携

顔の見える関係づくり

連携先を増やすと共に、連携をスムーズに行っていくため、勉強会や意見交換の機会を継続して実施していく。

地区支援ネットワーク会議の持ち方

毎月開催している地区支援ネットワーク会議のメンバーについて、必要に応じて見直しを行っていく。また、事例に応じて単発での出席を積極的に呼びかけるようにしていく。

住民向けの継続的な周知

自治会回覧や地区社協新聞、掲示板へのポスター掲示、地区ボラセンパンフレットへの掲載等、定期的かつ、継続的に住民への周知を行う。

パンフレットの作成検討

「コーディネーター配置事業」特に、「福祉なんでも相談窓口」を広く住民へ周知していくため、地域住民が手にとることができるパンフレットを作成していく。



事業周知

関係機関・施設訪問の継続

連携先を増やすため、他機関へ訪問し、事業説明や意見交換の機会を継続して実施していく。

2年8か月のモデル期間を経て、今後事業を実施していくにあたっての課題として6つを挙げ、それらの課題に対して取り組むべき事項をまとめました。



人材育成

地域の中での新たな人材の発掘

ボランティア育成講座を開催したり、声掛けを行ったりなど、地区内の協力者を増やしていく。

コーディネーターの資質向上

地区活動コーディネーター（地区ボラセン）に対しては、市と県共催で、毎年研修会を開催予定。

CSW（市社協）と地区支援コーディネーター（福祉相談室）については、市社協で毎年専門研修を開催予定。また、同時にコミュニティソーシャルワークができる体制整備を行っていく。

住民ニーズのキャッチ

地区活動コーディネーター（地区ボラセン）が活動する中での会話などから、地区（住民）のニーズを拾い上げ、取り組みに活かしていく。



表面化していない課題の発掘

積極的なアウトリーチ

CSW（市社協）、地区支援コーディネーター（福祉相談室）それぞれの立場でできるアウトリーチの手法を検討（地区内のサロンやイベント等へ参加など）

記録・検証の継続

モデル期間は終了したが、当面検証会議を継続し、事業内容の振り返り、検証をしていく。また、取扱い事例については、記録、整理を引き続き行っていく。



他地区への事業展開

事業の成果・効果の整理

事業の振り返り、検証をしていく中で出てきた成果や効果を整理し、他地区が事業を開始する際の参考となるよう、理論化、マニュアル化をしていく。

積極的な情報発信

地域福祉の担い手や連携先となりうる専門支援機関等向けに報告会や説明会を行うと共に、広報紙や広報番組で実施地区の活動を取り上げていく。

4. ネットワークの将来像

コーディネーター配置事業は、第2期地域福祉計画の重点プロジェクトとして、2年8か月間、湘北地区・浜須賀地区の2地区でモデル事業として実施してきました。

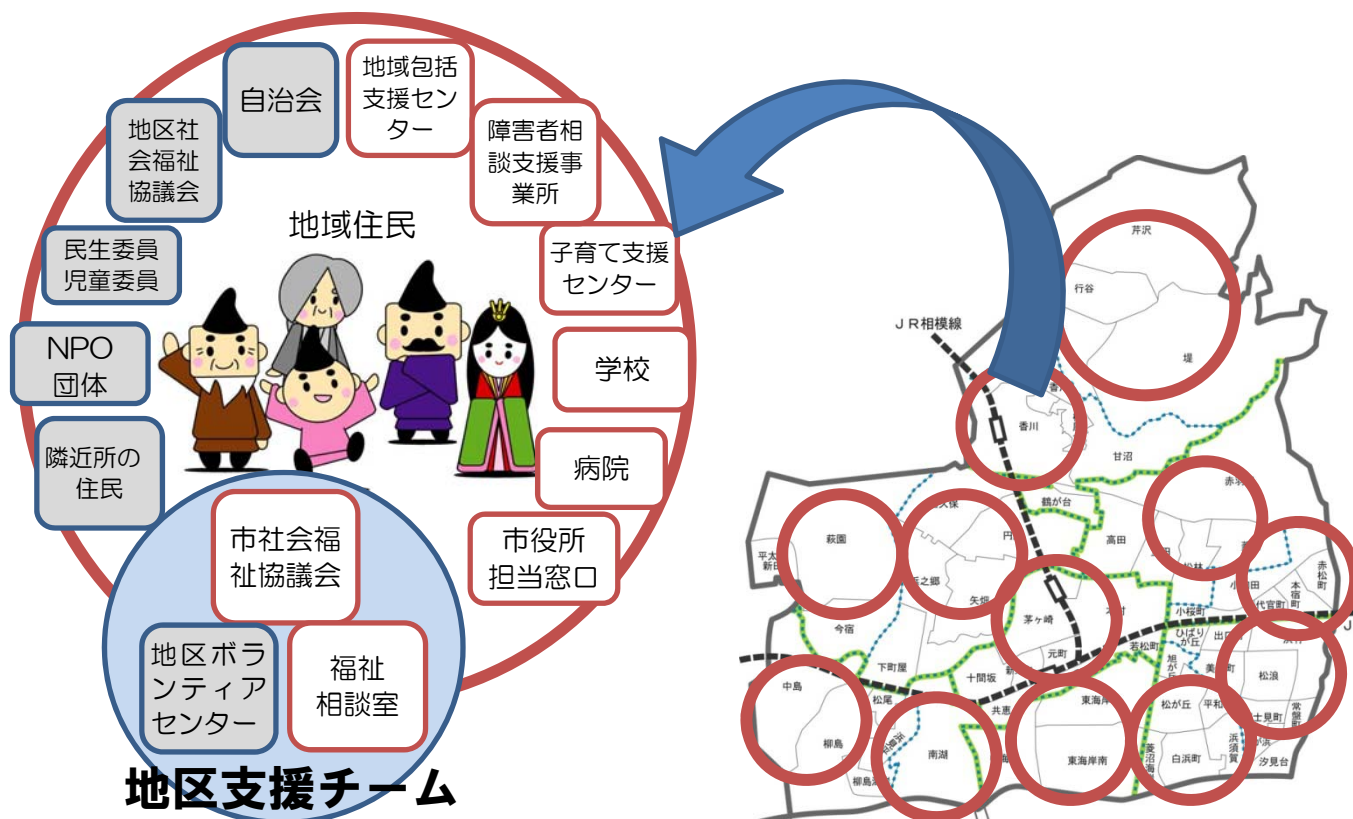
事業開始直後は（平成23年2月）、各コーディネーターの役割を確認しあうことから始まり、コーディネーター1人1人が手さぐりしながら、事業を進めてきました。約3年間事業を実施してきた中で、茅ヶ崎市社会福祉協議会と地区ボランティアセンターと福祉相談室が定期的に集まり、相談に対する対応方法を打合せするだけでなく、活動する上での困りごと、悩みを出し合うことで、3者の連携が強まり、様々な地域福祉団体や専門相談機関との支援ネットワークをつくる土台ができてきていると肌で感じるようになりました。

また、地域の方々が生活する中で感じる不便さや必要なことなどの「気づき」について、専門職によるアドバイスや支援が入ることであらたな仕組みづくりをしていくことができるということも事業を通してわかりました。

現在、実施していただいている2地区については、今後も現在の地区支援チームの利点を活かし、継続してネットワークの幅を広げていただきたいと思います。また、それぞれの立場の長所を活かし、地域の方々の気づきと専門職の強みをうまく融合させ、より住みよい地域づくりをしていただければと思います。

将来的に、このようなネットワークが市内全体に広がっていけば、ますます誰もが住みやすい地域が出来上がっていくと思います。

地域（住民）を支えるネットワークの将来像



5. アドバイザーより

平成25年8月に公表された「社会保障制度国民会議報告書―確かな社会保障を将来世代に伝えるための道筋」において、これからのわが国の社会保障モデルとして「21世紀（2025年）日本モデル」への転換がうたわれています。

この「日本モデル」の創設においては、住み慣れた地域で人生の最後まで自分らしく暮らせる地域を目指し、「21世紀型のコミュニティの再生」と「地域包括ケアシステムづくり」が目標として掲げられており、市町村が地域の実情に応じ、住民の取り組み等を積極的に活用した柔軟かつ効率的なサービス提供の体制作りを目指すものとして位置づけがされています。まさにこれからの社会保障・社会福祉の推進のためには、地域の実情や特徴をよく踏まえて、それぞれの地域にあった支援システムづくりが重要であることを改めて打ち出したものといえるでしょうが、逆にそれだけ地域で発生する生活課題が多様化・複雑化している事への警鐘であるとも取ることができると思います。

例えば引きこもりや孤独死の問題、児童虐待の問題などは依然減少しておらず、生活課題が複雑化する中で専門機関が拾いきれない多様化した福祉ニーズの存在が、地域社会にあると見るべきでしょう。「21世紀型のコミュニティ再生」に重要なのは、地域社会に暮らす住民の目線で生活福祉ニーズを捉えて、それを専門機関とともに住民も一丸となって課題の解決に取り組んでいくという体制作りなのではないでしょうか。

茅ヶ崎市においてはこうした状況にいち早く対処すべく、平成22年度からの「第2期茅ヶ崎市地域福祉計画」において、「コーディネーター配置事業」を重点施策として展開し、その検証に努めてまいりました。具体的な事業の実践経過については、すでに報告書の中でご覧頂いた通りですが、事業開始からアドバイザーとして関わる中で、特に次の3つの点については重要な成果として明示できるのではないかと考えます。

1つ目は地区内で発生している解決が必要な福祉課題について、専門機関、地域住民が相互に拾い上げ共有化する支援体制ができたことです。このことは、上述した日本型モデルの構築のために国が進めている地域包括ケアシステムの「茅ヶ崎版」に該当するものであり、今後の地域包括ケア推進の重要なモデルとして示されたものだと考えます。

2つ目は、そうして明確にされた生活課題を解決する支援策や対応方法を構築するための展開過程が示せたということです。これは、例えば介護保険のケアマネジメントで考えれば、課題が明確化することで正確なアセスメントができるようになり、そのことが具体的・効果的な解決方法の構築に繋がっているということです。例えば、浜須賀地区では保育園と地区が連携した取り組みを展開したり、また湘北地区では宅配可能な店の情報誌を作成したことなどは、正確な課題分析が専門家と住民の双方でできたことによる大きな成果ではないかと考えます。

さらに3つ目は、こうした取り組みが地域住民の福祉への関心を高め、地域に

おけるボランティア育成などにも大きな貢献をしていることだと考えます。先の国民会議の検討過程においては、これからの介護サービスの提供において、軽度者（介護度が軽度な人や予防・見守りが必要な人等）については、今後市町村や近隣地域でのサービス提供への移行が提案されており、より身近な地域でのサービス提供と、それを担う人材の育成・発掘が課題とされています。今回のモデル事業では、地域で課題を抱えている人の発見だけではなく、こうした地域包括ケア推進の具体的な担い手の発掘・育成にも大きな役割を果たしていると考えます。

こうした取り組みの成果が、今後十分に活かされるよう、引き続き事業の推進に尽力をお願いしたいと思います。

本事業は3年間のモデル事業として、市内2地区の取り組みを重点的に検討してまいりましたが、こうした取り組みが今後全地区にスムーズに拡大できるよう、この報告書で示されたモデル地区での取り組み成果をなるべく具体的に、かつ地域の方々にわかるように取り組まれることを期待します。

豊田宗裕